平成29年度　第１回　藤枝市男女共同参画会議　議事録

日　時　平成２９年5月２６日（金）１３:３０～１５:００
会　場　藤枝市役所　３Ｆ　３０１会議室
出席者　委員１１名（定員１５名　４名欠席）
　　事務局４名

議事・報告事項

（１）平成２９年度推進施策、（２）平成２９年度事業計画について

委員	「子育てを両親が共同で行う割合」の目標数値８０％に対し、２８年度市民意識調査の結果が１６．３％とギャップが大きい。原因や対策は何かあるのか？
事務局	２月の参画会議でもこの質問が出たが、３０代から５０代の働き世代の回答が反映された結果であり、就労状況が男女ともに７割近くあり、長時間労働から男性の家事・育児の参画が進んでいないことが読み取れる結果と分析される。
委員	質問の仕方も若干影響した。要因の一つとして前回までは「主に誰がしつけを」だったが、今回は「子育ては主に誰が中心」に変更したため、本来両親でやっていたかもしれないが「主に」と聞かれれば母親と回答した可能性が高い。
委員	目標数値８０％は全国的にこのレベルを目標としているのか？
事務局	１０年前に立てた目標値になる。意識調査の度にこの数値が下がっている。
委員	目標値は「達成できなかった」ということで終了となる。次回の行動計画の中でこの現実をどういう風に考えて、目標設定をどうしていくか、この会議で皆さんの意見を次回以降聞けたらと思っている。
委員	何年か参画会議の委員をやってきて毎年言っているが、この目標値に対して実際効果的な事業をしないでずっとこの数値で来て、結局反省しない会議だといつも言い続けてきた。前の会議でも議事録には書いてあるが、反映されていない。今回新しい目標値は、何回目の会議で決めるのか？
事務局	年５回の参画会議のなかで決めていく。健康福祉部では「子育ての支援」について、父親の子育てを誘導するために「子育てマイレージ」という制度があった。全庁では男性の子育てへの参画を促す取組みがある。その成果がどれくらいあったか、今その数値は持ち合わせていない。
委員	その成果がないまま、いつも次の計画ばかり出てくるので、来年度からの計画も同じようなものになる。だめなものは切り、新しいものに挑戦したらよい。今度は１０年間ではなく４年間になるのだから、その４年間でできることをやっていったほうがいい。そのために意見を出している。
委員	次の行動計画のことは、進捗管理でどのように計画が進んでいたのかについても、この会議でもっと積極的に関わった方がいいということを、事務局ともしている。今後の参画会議では進捗管理について、ただ「聞きました」ではなく、提案型に持っていけばいいと思う。父親と子どもの料理教室についても、父親の意識を高めるためにやってみたが、この「子育てを両親が共同で行う割合」の調査結果にダイレクトに響くまでには至らなかった。
委員	予算がかなり増えているが、詳しく説明してほしい。事業がうまくいったから増やしたというならわかるが、別にそんな増やさなくてもと思うところがいくつかある。少ない参加人数に対して予算をかけすぎが多い。費用対効果を考え、似たものは削り、新しいものをやったらどうか？同じことをずっとやり続け、同じ費用を出し続けることに対し、事業を１０年やり、完成も踏まえて計画だててやったらどうか。
事務局	ささえ愛の輪創造事業が企画政策課から予算組み替え、ふじえだであい創造事業は、事業の一部である２００万円が昨年度児童課に予算付けされており、今年度男女共同参画課に組み替えられた。やっている内容、事業規模は昨年度と変わっていないが、市の予算の付け方について組替等が行われた影響。
委員	対象人数が少ない割に、予算がついていることについて、例えば婚活事業などは、どのくらいの効果があったのか？そこを検証してから、次の事業に持っていったらいい。婚活については商工会議所の女性部会や青年会議所などいろいろなところでもやっているので、同じお金を使うのであれば分散しないで一緒にやったらどうだろうか？と以前の会議で発言したが、そこは検証したのか？
事務局	民間との共催という形はとっていないのが現状。農協や商工会議所で婚活事業をやっていることはもちろん承知している。行政間で静岡を中心に圏域内の焼津、藤枝、静岡あたりで一緒にやってみようかという動きは出ている。
委員	市の事業では業者への委託事業になるので、それなら商工会議所でやっている事業に市が参加したらどうなのかと思う。農協や商工会議所の参加者の人数や効果について市は把握しているのか？知っていますという割にあまり調べてないのではないか？
事務局	情報収集は、今後連携を図る中でしていかなければならないと感じている。

委員	しっかり調べたうえで、単独でやるほうがよいと答えられるならそうすればいい。県内の他市の状況で、藤枝市だけが男女共同参画課を持っているが、持っていない他の市に比べて何がいいのか検証できているか？持っていなくてもできているところはありそう。
事務局	課は以前はどこも作っていたが、規模や組織的に人も配置できなくなり、声もだんだんトーンダウンしてきて、係になってしまったというのが正直なところである。藤枝市長は男女共同参画を市の組織の姿勢として今まで通りもっと広めていく、という意味もある。あえて組織の名前を残し、さらに男女共同参画を進めていく、という市の姿勢を表している。
委員	今年回覧することになった情報誌Ｒｕｎらんらんは、予算的にはかなり減ったのか？
事務局	組回覧になったタイミングが、予算要求後である。当初予算は全戸配布で計上しているので、予算規模は変わっていない。ただし、実際の支出段階ではかなり大きく金額が減ってくる。
委員	以前も言ったが、組回覧より広報ふじえだに１ページ載せたほうがいいのでは。そこはどうか？
事務局	広報ふじえだには、毎年男女共同参画週間の際に、見開き２ページで掲載している。広報ふじえだを啓発の媒体としてもちろん使ってはいる。あえて情報誌という形で、啓発誌を作らせていただいているのは、広報はいろんな記事がある中でスペースも限られてくるため、載せたい情報をすべて載せられないから。もう一つは公募した市民の編集委員が市民目線で記事を書くことをメインにしている。実際に取材していただいたものを反映させるためには、媒体として一つ残しておきたい。
委員	Runらんらんを全戸配布から組回覧に変えるというのは結構大きな変化であり、この会議でも話し合いをされずに決まってしまったことはちょっと残念だと思う。市民からすると、積極的に男女共同参画に興味を持っていない限り、Ｒｕｎらんらんくらいしか、知ることがない可能性が十分あり得る。広報とともに半強制的に配布されて、目にしてみたら結構いいことやっているじゃないかと知ることになる。全ての事業の中でＲｕｎらんらんは大事ではないかと思う。予算的なことであれば、先ほどの提案のように広報で必ず１ページ男女共同参画について掲載するということでいいと思う。広報は必ず配布されるため、目にしてもらえる。残念ながら組回覧では、おそらく表紙しか見ないので、情報誌を作る意味がなくなってしまう。やがて廃刊になることが危惧される。もう一度全戸配布に戻すか、確実に広報に掲載するか、ということを再度検討いただけないか？
委員	せっかく情報誌を作成しても、回覧では見る方が少ない。早く回すことに気を取られ、結局表紙だけ見て終わってしまう。啓発の一環として、皆さんの意識を向上するのであれば、やはり個別配布がよい。この間も、弁護士さんのホームローヤー制度のちらし作成にお金はかかるけど、回覧は読んでもらえないから絶対にダメだ、ということで全戸配布に切り替えたことがあった。伝統のある２０号まで出るような実績ある情報誌だから、世帯配布したほうがＲｕｎらんらんということに対する認識が向上すると思う。
事務局	５人の編集委員が１０回の編集会議を重ね、取材し年１回発行するものであるが、組回覧に変え予算的に安くなっても、市民の目に触れなければかえってもったいないことになる。できることなら予算も取れているので全戸配布したいが、実は総務課で庁内の刊行物の全戸配布・組回覧のルールを決めていて、全戸配布できるものは市民の生活に直接関わるごみ収集カレンダーや、防災マップ、議会だよりなど決められていて、それ以外のものは組回覧でという指示がずいぶん前から出ていた。平成２７年度に男女に異動してきて、そのルールを知らず、情報誌を作成し全戸配布を依頼した際に、組回覧にしてもらわないと困るというやりとりになった。その際も、啓発目的なので全戸配布でないと意味がないと説得し、なんとか全戸配布させてもらった。平成２８年度も同じ理由でお願い倒して、全戸配布させてもらったが、この段階で、総務課からは平成２９年度については、絶対に組回覧で、という強い要請があった。こちらとしては、全戸配布したいという強い意思があったので、予算は「世帯配布」分で要求したが、実際には全戸配布が許されない状況だったので、しかたなく組回覧にしたという経緯。ただ、参画会議で、全戸配布でなければ意味がないという意見が出ているため、再度関係課と協議し、検討していきたい。全戸配布というのは、藤枝市の場合、自治会・町内会の役員の皆さんにに非常に負担をかける仕事である。Ｒｕｎらんらんだけではなく、たくさんの回覧・全戸配布するものが役所から作成され、年間を通して相当なボリュームがあり、自治会からもなるべく負担のないようにお願いしたいというご意見を頂いているところがあるため、総務課でこのようなルールを決めている。
委員	実は先月も役員でその話をして、全戸配布するというのは末端の組長さんの負担にはなるけれども、これは「安否確認」の目的もあるし、「あいさつ運動」などのコミュニケーションなど、いろいろプラスαの部分もあるため、いくら配布物が三つ四つ増えても広報と一緒に配るから負担は一緒だということで、先月の自治会長の定例会では従来通りやるということになった。一部をやめても、議会だよりなど配布物はいろいろあるので、そんなにメリットはない。だったら、うまくタイミングをあわせてくれれば、同時配布なのでそんなに負担はない。必要としたことは是非遠慮なしに言ってほしい。
委員	役所の中では、ルールが決まっていて、例外を一度は認めてもらっても、担当者が変わったりしたところでまた、認められないことがある。はっきりとルールの中に男女共同参画の情報誌を世帯配布するものの中に入れてもらうよう要望したらいいと思う。市民の生活に関わるものだと私は思う。

委員	２年間編集に携わったが、Ｒｕｎらんらんの一番いいところは、市民目線であること。役所が作るのではなく、市民が市民目線で「男女共同参画社会」を構築するためにどうしたらよいか、ということを考え、テーマを決めてアンケートを取ったり、実際にいろいろな企業を回ったりすることが、プラスになっていると思う。組回覧になってしまうと、表紙だけ見て、読まずに素通りしてしまう。自分が編集委員になり、いろんな方に情報誌を読んだか聞いてみたところ、結構みなさんが目を通してくれていた。市民目線の広報のあるべき姿の１つのモデルケースでもあるということで、Ｒｕｎらんらんを有効活用してもらえればいいんじゃないかと思う。編集委員の立場から言うと非常に苦労している。テーマを決めるにも、まず「男女共同参画社会とは何だ」というところからの勉強で、自分たちが具体的な姿にしていく。苦労したところが紙面にも現れているので、私としては組回覧ではなく、世帯配布し、浸透していくべきであると思う。
委員	今年、編集委員をやっているが、テーマをどうするかで戸惑っている。紙面を一つ作るのは本当に大変だなと思うが、編集員５人で頑張ろうね、と話をしながらやっている。
委員	ぱりて市民大学の講師が北村市長であるとか毎年同じで、内容が男女共同参画に全く関係ないといつも思う。第２回のぱりて講座では、県議の県政報告会。これは、県議が自分でやってほしいかな、と思う。これも市のお金を出してやることか？
事務局	このへんは、男女共同参画の啓発というよりも女性の人材育成を重視している。
委員	毎年やっていて、毎年同じ講師で、それに対する効果についてどう思っているか？こういう効果があったからまたこの人にやってもらおうとか考えないのか？
事務局	講師の選定については、いろんな方にいろんな話をしていただくということは必要だと思う。会長ともその辺は相談させていただき、今後講師については検討していきたい。
委員	いつも、同じ答え、どのくらい効果があったのか教えてといってもなかなか出て来ない。目に見える効果がないなら変えたほうがいい。次回の計画は、そういうことも含め、目標値から始まり、考えていったほうがいい。
委員	ぱりてはいつもアンケートなどは取っていないのか？アンケートの結果をもっとフィードバックするとともに、アンケート結果で良かった点や今度はなにを聞きたいか、誰の話を聞きたいかなどを、そのアンケート結果を見て翌年どのように決めたかというところを見える化するということをしたらどうか？
委員	必ず、すべてアンケートの結果を取っている。講師の選定についても同じ。その結果である。
委員	運営協議会でこの案を作っているのか？
委員	アンケートの結果に基づき、それを反映し、運営協議会で話し合いをして決めている。必ず全ての事業にはアンケートを取っている。
委員	手続きについても細かいところでなくていいので、この事業をこのようにやったという報告を頂く機会があれば、今度の行動計画を立てていくときにお願いしたい。
委員	機会があれば報告させていただく。
委員	主な目標の数値と現状の数値がかけ離れている。この目標というのは男女共同参画課の方針で、目標に向けてこれがある、こういうことをやっているということだが、これが本当に目標としていつも出すだけでいいのかということを考える。意識調査の聞き方についてもやはりちょっと問題があるかなと思う。男は外で働き、女は家で家庭を守るという考えについてどう思いますか？というアンケートの中の「同感する」「やや同感する」「どちらとも言えない」「やや違和感がある」「違和感がある」のなかの、「違和感がある」「やや違和感がある」の数字が性別による固定的な役割分担意識にとらわれない人の割合に表れていて、そういう聞き方で本当にちゃんとでているのか？つまり否定的な方がこの割合に出てきているがその聞き方がどうかな？と。もうひとつ、子育てを両親が共同で行う割合は「誰が主に」という聞き方もどうかなというのもあるし、これをやった結果としての数字が出て来ないと目標があっても、なかなか目標には届かない、と言ってるだけだと、事業をこんなにたくさんやってがんばっても数字に表れなくて、なんだ、となるので、目標はもう少し具体的に。啓発だから数字には出て来ない部分があるとは思うが、もうちょっと活動していることに対する目標、活動に見合った目標にすれば、市民の方も、男女共同参画課があるからこうなってきた、とわかるのではないか。主な目標がもっとわかりやすくなるといいと思う。
委員	単年度でやっていく事業をどういうふうに評価するか、まず目標を何に設定するか、その事業に対する結果を出す時の目標をどこにするか、そしてその結果をどう評価するか、もっと真剣に考えなくてはいけないと思っている。この意識調査は聞き方やその時の雰囲気などでものすごく操作されてしまうもの。意識を目標値にすべきなのか、という問題もある。今回は多分、１０年後だからこのくらいになっていたらいいねという、夢みたいな話を目標にした部分もあると思う。今度は４年後なので、事業がどれだけの意味を持つものになるのか、またどういう意味付けをしたいかというところをはっきりさせて、目標を明確にする、目標の設定の仕方を少し変えていくということが大事なのかなと思う。

委員	目標は最初から具体的な数字があってきちんと出せるものと、ある程度エイヤーの数字みたいなものがあると思う。それは仕方のないところ。大事なのはそれをやってアンケートを取り、目標値と実際の数値とかなりギャップがある。そのギャップの分析・解析がなされていないことが問題。子育てを両親が共同で行う割合の数値が下がっているがその下がった原因についての分析がなされていない。そこをきちっと詰めないと、結局、「結果はこうです」で終わってしまう。目標値の設定が悪かったのか、アンケートの聞き方の問題があったのか、事実、子育てを両親が共同で行う割合が本当に少なかったのか、実態はどうなんだというところを突き詰める、そのところから目標値の設定がおかしいのであれば設定を見直す、アンケートの言い方がおかしければ言葉を変えてみるといった具体的な方法に持っていける。平成３０年からの行動計画は、良い機会なのでできるだけ数値目標は入れたほうがいいと思う。数値目標をどうするかについてはかなり議論したほうがよい。

（３）市役所男女共同参画行動指針について

委員	各課の行動指針を見る限り、当たり前の内容である。参画会議でこの一覧表を出す必要がなく、これでページを使うのはもったいない。参画会議でこの一覧表を出してきてこんなのをやっているという方が恥ずかしくなる。
委員	でも現実だからしょうがない。
委員	こういうのを出して満足しているからおかしい、という話。どうみたって、ちょっと直しただけ、ほとんど一緒。言葉を変えてあるだけである。市民にこういうのをやらせているならともかく、市の内部で小学生ではあるまいし、この内容というのは恥ずかしい。
委員	庁内の男女共同参画の現実を私たちが把握する、という意味である。
委員	前回これが出てきた時、びっくりするぐらい当たり前のことが４分の１くらいの課でできていなかった。それに愕然とした。今回はそれを気にかけ、修正した。このようなスモールステップはとても大事で、一歩一歩進んでいくこと。ある程度できてくればいい。